

第17回 パワーの概念

H.J.モーゲンソー (Hans J. Morgenthau, 1904-1980)は *Politics among Nations* (1948, 1954, 1960, 1967, 1973, 1978, 1982)で国際政治の基調は各国による権力闘争であると主張した。そのことは副題 “The Struggle for Power and Peace” からも垣間見える。

(1) 「パワー」とは何か。

パワー(power)について猪口孝他編『国際政治学事典』(2005)には以下のような定義が示されている。

[定義] 政治学において、パワーは通常、「力源」と「影響力」との両者分けられる。前者は権力が行使される際にどれだけの資源・資質がアクターに備わっているかに焦点を当てるものである。(中略) 後者の「影響力」は、力源の大小は別次元として、パワーが行使された事実をアクターの行動の変化や政策内容に重点を置いて判断する立場である。⁽¹⁾

さらに具体的な定義としては次のようなものがある。

パワーとは、相手国を自国の意思に従わせる力のことである。自国の意思を押しつけるには、軍事力の行使とその脅しが有効である(と思われている)。相手国の好意と同意を得るには、利益を与える経済力と、相手を説得する外交力が重要である。さらに、相手国に気づかれないか形で、それら諸国の行動に影響を与えるものとして、国際的ルールの設定や世界的文化の支配を通じてヘゲモニーの力が有効である。⁽²⁾

軍事による領土獲得時代が終わると、それまでの軍事大国の発言力と影響力がすべてではなくなった。パワーにおける軍事力の比重が減って来たのである。重視されるようになったのは、経済力である。

(2) バランス・オブ・パワー

パワー＝軍事力の時代には勢力衡システムは軍事同盟などが重要であった。

一国がその軍事力を補強するために、他の国（々）と軍事同盟を結ぶことは、東西古今、諸国の政策である。近代ヨーロッパでは、勢力均衡 (balance of power) システムが国際的に承認された原則となっていた。⁽³⁾

J.フランケル(Joseph Frankel, 1913-)は「バランス・オブ・パワー」について次のように述べている。

「バランス・オブ・パワー」という表現は、ある学者によって、多くの社会的分野や物理的領域にも、国際社会にも見出される均衡状態への傾向を示すために用いられている。また、この表現は、均衡をめざす国内政治の動きを意味することもある。⁽⁴⁾

ただし、フランケルは1648年～1914年までの国際政治体系に与えられた名称としている。1648年とはウェストファリア講話条約締結の年である。

さらにフランケルの定義を見てみよう。

バランス・オブ・パワーは、それまでのどんな体系に比べても、はるかによく工夫された周到な体系であった。構成諸国は、この体系が課する規範に必ずしも進んで遵守する態度をとっていなかったにせよ、少なくとも、他国によって破壊されないようこれかれの規範を保護することに、自分たちの共通の利益があると意識していた。ある国が権力を獲得しようとして行動を起こせば、他の諸国は防衛のため力を結集するのが常であった。⁽⁵⁾

モーゲンソーはバランス・オブ・パワーについて次のように述べている。

力を求めようとする諸国家—それぞれの国は現状を維持あるいは打

破しようとしているのだが—の熱望は、バランス・オブ・パワーと呼ばれる形態と、その形態の保持を目ざす政策とを必然的に生み出すものである。(6)

このバランス・オブ・パワーについてさらに注釈において次のように説明されている。

バランス・オブ・パワーは普遍的な社会現象であるが、その機能および効果は国内政治と国際政治では異なる、ということ是指摘するまでもない。国内政治において、バランス・オブ・パワーは、次のようなところで作用する。つまり、強いコンセンサスと、通常では挑戦し難いような中央政府の力とによってまとめられている統合社会の比較的安定した枠組みのなかでそれは作用する。一方、コンセンサスが弱く、また中心的権威の存在しない国際舞台においては、その社会の安定と構成部分の自由は、バランス・オブ・パワーの作用に、より大きく依存することになる。(7)

今一度、「パワー」そのものについて考えると、重要視されるものが軍事力から経済力、文化力へと変化してきているようだ。パワーの内容によりハード・パワー、ソフト・パワーといった用語もあるのだ。

注

- (1) 伊藤剛「パワー」(猪口孝他編『国際政治学事典』弘文堂、2005年12月)、p.806.
- (2) 初瀬龍平「パワー・ポリティクス」(初瀬龍平他『国際関係キーワード』有斐閣、1997年8月)、p.18.
- (3) 初瀬龍平「勢力均衡」、p.20.
- (4) フランケル／田中治男訳『国際関係論[新版]』(東京大学出版会、1989年3月)、p.243.

(5) Ibid., pp.244-245.

(6) モーゲンソー／現代平和研究会訳『国際政治』(Ⅱ)(福村出版、1989年3月), p.180.

(7) Ibid., p.189.